

体感。感動。感謝。NBUのCOC事業をお伝えします。

# coc-nbu.jp

October 2015 Nippon Bunri University, COC MAGAZINE

文部科学省  
地(知)の拠点



日本文理大学COC事業

おおいた、つくりびと

# 四季の森 プロジェクト

ふるさとの森を守り、未来の子どもたちへ。  
私たちが今、できることは何だろう。



No. 02



▲外部の方との打合せの様子。互いに顔を見合わせ、プロジェクトについて真剣に話し合う。

## 2015年、春。佐伯にて 苗木作業にチャレンジ。

**大** 分県内で行われる植樹祭に参加した学生たちは、植樹祭で植えられる杉などの苗木が少なくなっているという現実を知った。その問題を解決すべく、苗木作業へとチャレンジすることを決意。意気揚々と県南の町、佐伯市に向かったのだが…。これまで「森林ボランティア養成講座」などで、さまざまな器具の取り扱い方などの指導を受けてきた学生たち。しかし、長時間にわたり同じ姿勢で繰り返す、気が遠くなるような地道な作業に「なんで自分たちだけが」と投げ出したい気持ちになる。なんとかチーム全員で励まし合いながら作業を進めるうちに別の想いが芽生えてきた。「このような状況に至った原因はどこにあるのだろうか?」。豊かな自然を「守る」ということは、一人ひとりが考え、行動することなんだ。彼らの中で何かが変わり始める…。

**続** いて向かったのは、豊後大野市。まだ寒さが残る3月初旬、大分県の名産、椎茸の駒打ちにチャレンジした。駒打ちとは、駒(種駒:椎茸菌を繁殖させた木片)を打ちこむ原木を玉切り(椎茸栽培に都合の良い長さで切る作業)し、ドリルで穴を開けて、駒を埋め込むこと。まずは地元栽培農家さんの手ほどきを受け、大分県農林水産部職員の指導のもとで約200本の原木に駒打ちを行った。「生産者の方が苦労していたとは…」と驚きを隠せない学生たち。予想以上に体力と根気がいる作業を体験し、汗を

流したからこそ分かったこと。森を守るためには、もう一度、ゼロから森と向き合うことが必要なんだ…。

## 2015年、夏。由布市へ 3日間の林業研修が始まる。

**四** 季の森プロジェクトのメンバー全員で話し合い、これから先の活動を見据えた「林業研修」を行うことを決定。8月17日から3日間のスケジュールは、まさに、おおいの森と真剣に向き合うためのプログラムがぎっしりと組まれていた。初日はNBUのキャンパスでの集中講義。大分県の林業担当者を講師に招いて、大分県の森林と林業の現状、豊後大野市で計画が進む、次世代エネルギー「木質バイオマス発電所」や苗木の生産から伐採作業までの流れについてなどを学んだ。質疑応答では、「ともにブランド化を掲げる日田杉とさいき杉の違いは?」、「苗木が不足しているにも関わらず、伐採を続けることで、森林の未来はあるのか?」といった学生からのストレートな疑問や質問が数多く飛び交った。



▲集中講義の様子。まずは、森について学ぶことが大切。

# 四季の森プロジェクト

里山を守り、森を育てる。森林環境保全活動を通じて、地域社会に貢献。

地元、おおいの里山再生と保全を目的とした「四季の森プロジェクト」。平成25年9月に1年次生10名によって結成されて以来、「森林ボランティア養成講座」や植樹祭に参加するなど、毎年、継続的に活動しています。そんな中、参加学生たちは「このまま森林ボランティアに取り組むには限界がある」という危機感を抱きます。やる気があっても、森に対する知識や現場での技術がなくては空回りしてしまう…。そんな思いから平成27年度の「四季の森プロジェクト」は新たな挑戦を始めました。



▲久大林産株式会社の見学では、作業員の方にチェーンソーやクレーン車での伐採作業の現場などを実演してもらった。

**二** 日目は、由布市市内の阿蘇野の山に向き、実際の林業の現場を体験。真夏のうだるような暑さの中、長袖の作業着で30分近く森の中を歩き続ける。作業場にたどり着くまでがひと苦勞。こんな当たり前の事実も、体験するからこそ分かるのだ。今回、協力いただいた久大林産株式会社の作業員から、チェーンソーの扱い方や高性能林業機械での作業を実演してもらった。静かな森に響き渡る「ズドン!」と木が倒れる音、全身に伝わる振動に驚きを隠せない学生たち。人の手が届きにくく、足場が悪い所でも作業ができるハーベスタ、プロセッサといった最新のマシンが導入されている林業の最前線に目を輝かせていた。

## 林業の最前線に触れることで 芽生えた可能性を未来へ。

**美** しい森はどのように守られ、そこから届けられた木が、どのように暮らしに活かされているのか。最終日は、まず、九州林産株式会社が所有する森を見学。適切な森林管理が行われていることを認証する国際認証機関であるFSC(森林管理協議



▲FSCの「森林管理認証」を取得する森。スタッフの丁寧な管理のもと、良質な木が育つ。

会)の「森林管理認証」を取得する森に携わるスタッフの想いに真剣に耳を傾ける学生たち。その後、伊万里木材市場でプレカットなどの加工にて、商品として流通するまでのプロセスを体感。研修の最後は、大学の近くにある池見林産工業株式会社に伺い、大分県産の木材を使用した武道館を見学。森を学び、森を感じ、森からの贈り物に感謝する。3日間の工程で体験した一つひとつのことが、一本の線でつながった学生たち。「森を守ることの大切さ、林業の素晴らしさを多くの人に伝えたい」、「将来、エンジニアとして林業の現場で役に立つマシンを開発したい」。ハードなスケジュールを乗り越え、多くのことを学んだからこそ、彼らの眼差しは「四季の森」の明日へと向けられていた。



▲木が「木材」へと加工される過程を見学。



▲池見林産工業株式会社が手がけた武道館は、大分県産の木材を使用した木造建築。

## 四季の森プロジェクトの仲間たち

## 学部・学年を超えて集まったメンバー 授業だけでは学べない、味わえないことがある。

NBUの学生たちが自主的に活動を続ける「四季の森プロジェクト」は、平成25年に10名の有志が集い活動を開始。現在は1・2年生の15名が参加しています。「四季の森プロジェクト」の拠点となっているのが、学内の「人間力育成センター」。大分という恵まれた環境で学ぶNBU生が地域社会に参画し活発に活動・貢献することで、大分でしか味わえない経験や学習をサポートしています。



里山保全チーム

学生たちの活躍は、  
NBUのCOC特設サイトをチェック!

nbu coc

検索

## NEWS



## これからも続く、四季の森プロジェクト

9月初旬、「四季の森プロジェクト」のメンバーは、本文冒頭で紹介した、杉の苗木を植えた佐伯市の山に入り、雑草などを取り除く「下刈り」に汗を流した。\*掲載記事は許諾を受けています。

# キラリびと

『おおいた、つくりびと』で活躍する学生、  
教職員、地域の皆さんにインタビュー。

## 02



四季の森プロジェクトメンバー  
工学部 機械電気工学科2年

塩崎 克樹

### Q. 四季の森プロジェクトに参加したきっかけは？

A. もともと体を動かすことが好きだったので、実際に森に出掛けて作業を体験してみたいと思いました。四季の森プロジェクトには、学部や学科の垣根をこえて同学年の学生が参加していることも大きな理由のひとつでした。大学の授業だけでは経験できないことを仲間と一緒に味わいながら、気持ちをひとつにして、チームワークを高めていきたいと思いました。

### Q. 今回の林業研修で印象に残っている出来事は？

A. 林業の現場というのは、クルマなどで簡単に行ける場所ではありません。険しい山道を歩き続けて、ようやく仕事場に到着する。そこから安全に気を配りながらの作業が続くの

ですが、正直、仕事が始まる前にヘトヘトになっていました。でも、それは経験しないと分からないリアルな林業の姿なのだと思います。最新の機械でも入り込めないところがあるので、そこは手作業になります。これからの林業について、現場で感じたいろんな疑問や新たな可能性を、これからの大学生活、将来の仕事の糧にしていきたいと思っています。

and more...



## PICK UP! COCプロジェクト

2015.07.23

### つるさき歴史発見ツアー ～変わらないこと

鶴崎「清正公二十三夜祭」

豊後における熊本藩の支所的な役割を担った鶴崎。今年も、60名の学生が「清正公二十三夜祭」に繰り出した。紙芝居をつくり、町の歴史や文化について小学生に伝える。旅の安全を祈願したという法心寺では、豆茶の振る舞いを体験し、提灯行列で街を練り歩く。飛び地で暮らす住民は藩主をどんな気持ちで迎え入れたのだろうか？真っ暗な海上から提灯の明かりを見つけたとき、武将たちは安堵し、もてなしに癒されたことだろう。帰る場所があるって大事なことなんだ。学生たちは、子どもたちの手

を強く握り、時代を生きた人々の暮らしや心の変化に思いを馳せる。自分たちも今、歴史の一コマを歩いている。こうして、地域の歴史が積み上げられて行くんだ。時代は移り変わっても、人の気持ちは、今も昔もさほど変わらないのではないかと考えた。「簡単に壊せないよな……」「守り続けよう」毎年、祭りへの想いが強くなる。



まだまだあります！  
大分県内をステージに進行中の  
プロジェクトが盛りだくさん。

- 海に面した地域の夏～湧き上がる感謝のころ
  - 「川の港まつり」で学んだ「地域で生きるってこと」
  - 夢に向かって羽ばたく滑走路
- etc...

くわしくはNBUのCOC特設サイト **coc-nbu.jp** へ